

6月14日に行われた議会一般質問を大津町議場で午前中傍聴し、その後社会調査法という授業の受講生に感想をまとめてもらい、授業内で発表会を行いました。



初めての議会傍聴と感想

現代文化学部1年 坂本 奈穂

現代文化学部1年 佐藤 琴音

私は議会の傍聴も議場に入ることも初めてだった。テレビで見る議会映像と違い、実際に議場の張りつめた雰囲気や、質問する議員の真剣な表情を見て、私たち市民の声を代弁してもらっているのだと感じた。議場に入ると、質問する議員が使う資料が配られた。資料は議場にあるモニター画面にも大きく映されるため、とても見やすく、議会についてあまり知らない私にも聞きやすいものだった。議員は改善策を提示するだけでなく、それを裏付けする根拠となる条例や町の現状を徹底的に調査されていて、議員の苦労やこの問題を解決したいという思いが感じられた。

印象に残った一般廃棄物収集、再生資源回収、環境美化思想の普及、ごみステーションの設置の義務付け、補助金交付額の適切性という3つの点が提案された。ゴミステーションについての説明の際、「コロナで通販が増え、段ボールなどの資源物も増える」といった自らの実体験を述べていたことに親近感を抱いた。ごみの問題は「大津町だけでなく、私たちの身近にある課題なのだ」と改めて感じた。

議会全体の様子に関しては、各議員が一般質問をする議員の話聞きながらメモをする風景がみられた。また、それぞれの席にタブレットが配置されており、皆さんは調べたりしていた様子もあった。タブレットの利用や議会の様子を撮影してモニターで映し出していることなど、積極的にデジタル機器を活用していることがわかる。住民から集めた声を重視し、問題だと思ふ点についてそれらが改善されるよう、真剣に自身の考えを述べている様子が印象的だった。

印象に残った一般質問(高尾野森林公園遊歩道整備)とその感想

いつも身近に感じていた大津町に、高尾野森林公園という場所があることを初めて知った。木などが生い茂っていることもあり、イノシシやシカは高頻度で出没するため、そのリスクを減らしていく必要があると思った。高尾野森林公園をさらにPRすることで、森林浴などのアウトドアにも活用できると感じた。